

嘉麻市社協だより

# えがお

No.121

社会福祉法人 嘉麻市社会福祉協議会

〒820-0205 嘉麻市岩崎1143番地3 稲築住民センター内

TEL 0948-42-0751 <http://kama.syakyo.com>

FAX 0948-83-8005 [info@kama.syakyo.com](mailto:info@kama.syakyo.com)

<https://www.facebook.com/kama.swc>

発行日/2016.3.1



## 市民のみなさまのおかげで 法人設立10周年を迎えました



嘉麻市社会福祉協議会は、本年3月1日で、法人設立10周年を迎えるため、2月11日(木)に、なつき文化ホールにおいて、記念式典を開催しました。

当日は、たくさんの方々のみなさまをはじめ、来賓の活動を支えてくださった方々など、100名を超える方にご来場いただきました。

最初に野見山副会長の開会の言葉で幕を開け、続いて村上市長が式辞をつづじて、これまでの10年を振り返るとともに、新たな10年に向けてともに力を合わせていこうという

メッセージを伝えました。それから、白石副市長が赤間市長のメッセージを代読し、嘉麻市議会議長の宮原由光さん、福岡県社会福祉協議会事務局長の細山田晃さんから祝辞をいただきました。

その後、表彰に移り、会長表彰では4人の表彰者が、また特別表彰では故竹島壽男さんのご家族が、会長感謝では15名を代表して藤田義輝さんがステージに上がり、それぞれ会長から賞状と記念品を受け取られました。

その後、芹野副会長の閉会のことばで、第一部の式典は幕を下ろしました。



式辞を述べる村上市長



赤間市長からの祝辞を代読していただきました

## 被表彰者のみなさま

### 会長表彰

本会の役員、評議員として10年にわたり在職され、本会の発展に寄与し、その功労が顕著な方  
大山博之さん 和田秀美さん 竹島信江さん 村上曙生さん  
島田睦男さん

### 会長特別表彰

本会の役員、評議員の任期途中で亡くなられた方で、本会の発展に寄与し、その功労が顕著な方  
竹島壽男さん(故人) 坂口陸海さん(故人)

### 会長感謝

本会の地域福祉推進委員会委員、福祉推進員を10年にわたり務められ、地域福祉の進展に寄与し、その功績が顕著な方

中並美潮さん 西野眞奈美さん 竹島信江さん 村上曙生さん  
島田睦男さん 佐田スエ子さん 赤間秀人さん 富崎政勝さん  
堀初さん 藤原美知恵さん 上提政明さん 西坂勝正さん  
藤田義輝さん



嘉麻市議会議会を代表して、祝辞をいただきました



福岡県社協会長からの祝辞を代読していただきました



広報紙でこれまでの10年を振り返るパネル展示をしました



出席いただいた来賓のみなさま



たくさんの市民の方にご来場いただきました

NPO法人フリースペースたまりば  
理事長 西野博之さん

西野博之さんは、1986年から子どもや若者の居場所づくりに関わっておられます。1991年には、川崎市にフリースペースたまりばを開設し、不登校児童、生徒やひきこもり傾向にある若者、様々な障がいを持つ方たちと共に地域で育ちあう場づくりをしています。

30年という長い実践の中から感じておられる子ども、若者を取り巻く現状や家庭と地域に求められているものについてお話をいただきました。



居場所づくりを  
始めたきっかけ

今から約30年前、2つの出会いがありました。小学校1年生のシユン君は、小学生になるのを楽しみにしていたのに、ゴールデンウィーク明けから、朝になると思うように体が動かなくなり、目を涙を浮かべ、「ぼく、もう大人になれない」と訴えていました。また、不登校になった中学2年生のマユミさんは、追い詰められた母親の無理心中に巻き込まれました。いざ自分の子が学校に行けなくなると、多くの親が暗いトンネルの中で悩み、苦しみ、子どもを責め、自分を責めていきます。どこで生きたらいいのか、学校の外に育つ場はないのか、この二人とその家族との出会いがきっかけになり、居場所づくりを始めました。

子どもの自信を  
奪うものは何か

日本の子どもは自分に自信が持てない、自己肯定感が低いと言われています。その低さの裏には、親である大人たちの不安があるように感じます。最近では、抗菌された砂場がもたはやされ、また、不審者から守るためのグッズを持たされている子どもも増えています。これで

は、外は汚くて怖いところ、人は簡単に信用してはいけないものと思うようになり、家から出たくない子どもが増えてもおかしくありません。しかし、実際は、不審者によって子どもが殺される事件は戦後減り続けています。むしろ子どもが命が奪われる事件の多くは、家庭内で起きています。大人が気づかぬうちに子どもが居場所を奪うことで、生きにくさを生んでいるのです。

勉強だって、スポーツだって、できたほうがいい？

大人たちの不安が強まると、自信がなくなる子どもも増えていきます。人生を失敗させまいと、早期教育や習い事がもたはやされていますが、世間体を意識した親たちによって、「これくらいできて当たり前」「人並みに」「とハードルがどんどん上げられているように感じます。習い事は勉強だけでなく、運動会のかけっこで二等賞をとるための家庭教師を雇うほどです。また、一秒でも早く走れるように作られた運動靴が人気です。子どもは、「できないよ、無理だよ。」と自分の弱さをさらすこともできません。

できないことの二つや三つあってもいいじゃないですか。完璧を目指し、失敗させまいと先ま

わりすることが、逆に子どもが自分で考え、判断する力を奪っています。長い人生、思い通りにいかないことのほうが多くて当たり前です。

だからこそ、子どもが失敗に出会ったときこそ、成長のチャンスです。自分のつらい気持ちを受け止め、寄り添ってくれる人がいるという安心感があれば、子どもは自分の頭で考え、また歩き始めます。

子どもたちに「生まれてきてくれてありがとう」を伝える

不登校やひきこもりで悩む子どもたちは、とても苦しんでいます。まず、本人は外に出たいけないと思うようになります。また、ご家族も辛い思いをされています。不登校になってもひきこもりになっても、堂々と歩ける地域を、安心して失敗できる環境を作ってください。

大切なのは、そのまま大丈夫だよという安心感を伝えることです。不登校やひきこもりが悪いという発想を変え、子どもたちが「ひきこもっていた時間には意味があった」と思えるように見守り、受け入れることが求められています。どうか、原点に戻り、地域の中で一人ひとりが大丈夫の輪を広げていきましょ。

# 水俣病は終わっていない～公式確認から60年経った今も～

1月16、17日の二日間、職員自主勉強会として、水俣でのフィールドワークを行いました。その中で特に心に残ったことは、1998年11月に設立された『ほっとはうす』で、『水俣病から宝物を伝えるプログラム』に参加し、患者さんの想いを伺ったことです。

胎児性・小児性水俣病患者の方々が始められた『ほっとはうす』では、障がいを持つ人を中心にした働き、集い、交流しています。

小規模多機能事業所「ほっとはうす」にてプログラムに参加させていただきました。



メンバーのみなさん6名がそれぞれ自己紹介をされた時、施設長の加藤タケ子さんが、このプログラムでは、自身や身近な家族の年齢と比べて考えてほしいから必ず一人ひとりの生年月日を言うようにしているとの説明をされました。そして、「遠くにいる水俣病の患者さんではなく、もし私や大切な人や家族が、患者さんが生まれた時期に水俣で生まれていたらと想像して聞いてほしい。たまたま違う所に生まれ魚を食べなかった環境にいただけのことであって、犠牲を水俣のみなさんに背負ってもらうことで今の自分がいるんだと考えることが大切です」と話をされました。



金子雄二さん

加藤さんがフアシリテイターとなり、患者さんの記憶の引き出しにしまわれた思いをその場で言葉にしながら共同トークで進行されました。

1955年生まれ。水俣病の公式確認は1956年。「お父さんはいない。お母さんのお腹にいたときに(劇症水俣病)死んだ。」と語りだす金子さんは、母親が食べた魚の有機水銀により胎内で水俣病となった胎児性水俣病

患者。家族全員が水俣病認定患者。



鬼塚勇治さん

水俣病の患者さんの入所施設「明水園」で生活して50年近くになる。週に2回ほっとはうすに通うようになって、7年。安心して地域で生活することができるようになった。



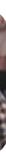
永本賢二さん

水俣病の原因であるメチル水銀を含んだ工場廃水を流し続けたチツソ水俣工場で父親は働いていた。父は自分の勤める会社に引く行動で、認定を勝ち取ってくれた。学校では鉛筆を買う時も、「補償金で買うの?」といじめられ辛かった。そんな時、チツソの専用港のクレーンが「賢ちゃんがんばれよ」と励ましてくれた。



長井勇さん

水俣病の原因であるメチル水銀を含んだ工場廃水を流し続けたチツソ水俣工場



加賀田清子さん

30代の半ばから、水俣病の影響で歩行機能が低下し車椅子生活になった。明水園に入所中は、自分よりも重症な胎児性患者を支え車椅子を押ししたり言葉が出ない患者の心の言葉を伝える役目をしてきた。もつ度、歩くことができないならば、また仲間のお世話をしたいと思う。



半永一光さん

胎児性患者として生まれ、声を出すことが難しい障がいを持つため、言葉の代わりに写真を撮る。車いすからの独特なアングルで写真を撮ってきた。写真集「ふれあい 撮るぞ」を自费出版。



半永一光さん

「お父さんの顔が見たかった」と涙を流して語られた金子さん。「ほっとはうす」に通い、いろいろな人と話をできるのが



水俣病センター相思社の葛西伸夫さんが、水俣病歴史考証館にて説明してくださいました

楽しい」と話された鬼塚さん。「普通の患者さんなら憎らしいだろうチツソの風景に僕は励まされた」と語られた永本さん。「絶対にまた、いろんな所へ行きたい」と希望を語られた長井さん。「仲間の存在がとても大切ですよ」と話された加賀田さん。想いを写真で表現し、メッセージを送り続けている半永さん。6名のみなさんの話を聞いて、水俣病は終わっていない、今も続いていることだから、きちんと自分のこととして考えなければならぬということ強く感じました。

ほかに、百間排水口、水俣湾埋立地、親水護岸等の見学、水俣病歴史考証館、水俣病資料館での学習などをし、自分が社会でどう生きているのかと考えさせられる二日間でした。現地で勉強して終わるのではなく、学んだことを日常につなげていかなければならないと思います。

## 新しい地域支援事業を考える

1月29日(金)、夢サイトかほで協議体の目的と役割について学ぶ勉強会を開催しました。公益財団法人さわやか福祉財団さわやか九州ブロックの阿部かおりさんと竹下順一さんから、平成27年度介護保険制度の改正と高齢者を支える地域づくりについて、話を伺いました。

今までの介護保険では、全国一律の基準で介護予防給付を行っていましたが、要支援者に対する訪問介護及び通所介護が、地域支援事業に移行されることになりました。つまり、それぞれの市町村の実状に応じて、自由なサービスを考え、高齢者を支え、支えられる仕組みをつくることとなります。

嘉麻市では、平成29年度のスタートに向けて、体制整備に取り組んでおり、5つの中学校区ごとに協議体を設置することになります。協議体では、地域で活動している方々が集まり、顔なじみやおたがいさまの関係だからこそ分かる困りごとを話し合いながら、その地域に足りないものを考え、居場所や支えあいの仕組みをつくっていきます。



勉強会の最後に行ったグループワークでは、「制度の流れや何をしなければならぬのかは理解できたが、具体的にどうしたらいいのかわからない」とや「勉強会を続け一緒に活動する人を増やしたい」、「活動に参加するところが介護予防につながる」など、たくさん意見がでました。このような話し合いの場をもつことが、地域の課題整理や助け合い活動をつくる取り組みにつながると感じました。

4月からは毎月1回、勉強会や研究会を開催したいと考えています。ぜひ、ご参加ください。

## 嘉麻市社協のブログ

本会では、日々の活動を紹介したり、いろいろな福祉情報を素早くお届けしたいという思いで、ホームページで、日記『嘉麻市社協のブログ』を書いています。そこから抜粋してきた記事をご紹介します。ぜひご覧下さい。 <http://kamasyakyo.chobi.net/wordpress/>

2016年 1月14日(木)

今日は、ふれあい・いきいきサロンなかますのみなさんから、出前講座「かまこさんのお悩み解決～成年後見制度の利用」の依頼をいただき、中益公民館におじゃましました。



初めてこの制度について聞くとと言われる方々もたくさんおられたので、できるだけ分かりやすく伝えるように紙

芝居を進めました。

みなさん、「そっかあ」「うんうん」と頷きながら真剣に聞いてくださいました。

終わった後の質問で、こういう制度があることを知ることができてよかったとの声がありました。今後もこのような機会を作っていただき、いろんなことを共有していけたらと思っています。

来月はひな飾りを作られるそうで、またおじゃましたと思います(\*^\_^\*) (M)

## 「読めば答えが見つかるかも」 社協だよりクイズ

「広報紙えがお」を読んで、次のクイズにお答えください。正解者の中から抽選で2名の方に、図書券(千円分)をプレゼントします。

### 問題

3ページでフリースペースたまりは理事長の西野博之さんは、子どもに何を伝えることが大切だと言われたでしょうか。

- (1)達成感
- (2)充足感
- (3)安心感

### 応募方法

①クイズの答え、②広報紙の感想、③郵便番号、住所、④氏名、⑤年齢、⑥電話番号をご記入の上、3月31日(必着まで)に八ガキ、またはEメールにご応募ください。

### 送付先

〒820-0205  
嘉麻市岩崎1-143番地3  
嘉麻市社会福祉協議会

E-mail: fiki@kama.syakyo.com

### 前号のクイズの答え (1)

office kei-カウンセラーの中島さんはトラウマを回復するために自助グループを立ち上げました。

応募のあった方から社協だよりの感想をいただきましたので、紹介します。

- ・人権問題も多く取りあげ、社協の活動状況もよくわかり助かっています。「灰鉱の記憶」が楽しみです。
- ・毎月読ませていただいております。人権問題等参考になります。「ふるさとへの手紙」が二番の楽しみです。

※「選者の発表は発送をもって代えてさせていただきます。

## 身近に取り組むことができるボランティア活動

### ～生活支援ボランティア養成研修～

2月3日、飯塚コミュニティセンターにて、福岡県生活支援ボランティア養成研修があり、約50名の方が参加されました。生活支援ボランティアとは、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるようお手伝いをする方です。

午前の講義では、本会の木山事務局長が「ボランティアを始めるにあたって」をテーマに講師を務めました。

ゴミ出しや電球の交換など、ふだんの暮らしの中にあるちょっとしたことは、頼む人がいないと困りごとになってしまいます。ご近所同士でのお互い様の関係を作ることが大切であることを強調しました。また、今回の介護保険制度改正をきっかけに、困りごとを抱えた方のできないことを探し、何もできないと考えるのではなく、その方も自分も何かができるという発想で考えていく事が必要であることを話しました。

その後のグループワークでは、ストーブに灯油を一人で入れることが難しく困っている方の事例をみんなで考えました。話し合う中で、こんな方が協力してくれるのではないかと、今はないけれども、こんなことが地域でできたら困りごとを抱える方が少なくなるのではないかという意見が出ました。

参加された方に感想を伺うと、「困りごとに出会ったり、発見することも大事であると感じました。」と言われていました。

誰も排除されず、その人らしく生き生きとした生活を営むことができる地域づくりをみなさんと一緒に考えていきたいと感じました。



## ボランティア情報

### 春休み期間中のボランティア

本会が実施する障がい児日中一時支援事業で、子どもたちと一緒に遊んでいただける方を募集しています。

記

**日時** 平成28年3月19日(土)～  
4月5日(火) 8時30分～17時

※日曜日は除きます。

※ご都合の良い時間帯だけで構いません。

**場所** 嘉麻北日中一時支援事業所  
(嘉麻市鴨生339)

**内容** 障がいをもつ子どもたちの  
遊び相手、宿題の補助など

**備考** 動きやすい服装や時間帯によっては  
お弁当、飲み物をご準備ください。

### 福岡県身体障害者体育大会のサポート

第54回福岡県身体障害者体育大会において、選手のサポートをしていただける方を募集しています。

記

**日時** 平成28年5月8日(日) 8時～16時(雨天決行)

**場所** 博多の森陸上競技場  
クローバープラザ・アリーナ棟

**活動内容** 視覚及び聴覚障がいがある方の誘導、  
車いすの方の補助等

**募集人数** 2～3名

**募集締切** 4月15日(金)

**備考** 当日は動きやすい服装でお越しください。  
現地まで、バスでの送迎があります。  
また、昼食は主催者側で準備します。

# 一冊



## そして、生きる希望へ ～貧困に立ち向かう子どもたち～

著者：阿蘭 ヒサコ 富部 志保子  
出版社：N T T 出版株式会社



この書籍は、「今子どもたちに何が起きているのか」という現状を多くの人に知ってもらうことを目的に企画され、執筆されたものです。子どもの貧困の問題について、2つの話が収められています。

「生んでくれてありがとう」一貧困のなかで育つ子どもたちは、父親の家庭内暴力から逃れ、母子家庭になった母子の物語です。母親と弟と暮らすことになった14歳の長女は、経済的に苦しくなった生活を少しでも助けようと仕事で忙しい母親の代わりに家事をすることになります。友だちとも遊びに行くことはなくなり、次第に学校で孤立し、不登校になっていきます。そんな時に、母親が自分を身ももったことで父親と結婚したことを知り、自分を責め、生きる価値も失いそうになります。母親のすすめで、大学生のボランティアが活動を支える「にじいろ広場」に出会い、おいしい料理を作ったことをきっかけに長女は自分が少しは価値のある

る人になったように感じます。だんだんと変化が見られ、プロの料理人を目指し、高校進学を決めました。

「シェアライフ」社会的養護からの巣立ちには、自分の未来が見出せず、会社を辞めた青年と児童養護施設で育った少年との出会い、交流を描いた物語です。18歳で施設を退所した少年たちは、身近で料理や掃除、ゴミ出しをする様子を見ていないため、仕方がわからず困っていることや、周りに聞いたり相談したりできる人がいないという現実を少年や仲間たちとの交流を通じて青年は知り、自分の未来を見つめなおしていきます。

この2つのストーリーに共通していることは、人生の初期に親との信頼関係が築けなかったとしても、その後の人生で出会った人との交流によって、人との信頼関係を築くことができることです。子どもたちは、深く心に傷を残していますが、その傷は誰かとの安定した絆によって徐々に癒されます。そして、自分だけがえのない存在であるという自己肯定感を持つことで、自信を取り戻しています。この自己肯定感がベースにあることで、人は自立に向き歩を踏みだしていることを感じました。私には関係のない世界で起きていることではなく、世の中で起こることはどこかで自分とつながっているのだと切に思う一冊でした。

(かじ)

### 4月の総合相談

法律相談は予約が必要です。先着順となりますので、お早めにお申し込みください。

#### 法律相談

とき：4月7日(木) 13:00～16:00  
ところ：山田ふれあいハウス

とき：4月21日(木) 13:00～16:00  
ところ：稲築住民センター

#### 心配ごと相談

とき：4月13日(水) 13:00～15:00  
ところ：稲築住民センター

とき：4月27日(水) 13:00～15:00  
ところ：稲築住民センター

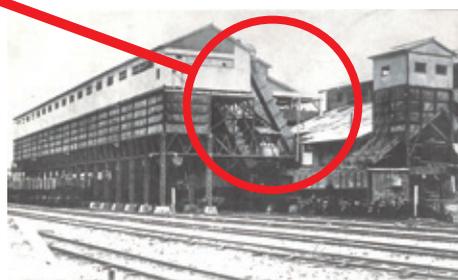
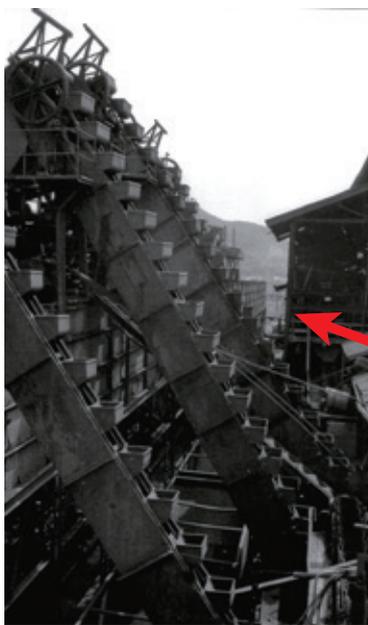
嘉麻市社会福祉協議会 ☎0948-42-0751

### 炭鉱の記憶

No. 108

今回は、1960年代の古河下山田炭鉱の写真を見せていただきました。右の写真は、石炭とボタを分けていた選炭場です。(写真提供者：高下藤光さん)下山田駅につながっていて、石炭を若松まで運んでいました。

また、左の写真は、選炭場に設置してあった石炭を積み込むベルトコンベアです。(写真提供者：永吉博義さん)運搬の機械が進み、電気でもベルトコンベアが使用できるようになったおかげで、能率は飛躍的に向上したそうです。



炭鉱時代の懐かしい写真や思い出などを募集しています。嘉麻市社会福祉協議会までご連絡いただければ幸いです。

☎0948(42)0751

# 法人運営 INFORMATION

平成28年3月1日、各地区の地域福祉推進委員会委員が改選されましたので、紹介させていただきます。なお、任期は、平成28年3月1日から平成30年2月28日までの2年間です。

## 【地域福祉推進委員会新委員】

※敬称略

	稲築	碓井	山田	嘉穂
委員長	野見山利三	竹島 信江	村上 曙生	山根 國治
副委員長	井上 友征	仲島 隆生	島田 睦男	澤田 智幸
委員	富崎 静江	坂口 勲	原田 敦子	西森 章雄
〃	上提 政明	頼金 豊子	赤間 秀人	芹野 彌生
〃	麻生 絹代	上田 信子	稲富 静代	田中マスミ
〃	高木久美子	坂田 雅量	古賀 稲子	縄田 圭弘
〃	西野眞奈美	山元百合子	臼井 隆輝	大塚 カヨ
〃	渡辺紘一郎	原 奈緒美	伊藤 洋子	大屋 瑞枝
〃	中村 由美	坂口 嘉勝	梶原 賢一	山本 吉美
〃	岡本 拓彦	岩井 久子	大村 正毅	川村 司

## 山田ふれあいハウス閉館時間変更のお知らせ

平成28年4月1日(金)から10月31日(月)まで、閉館時間が下記のとおり変更になります。

**閉館時間 午後7時**

※子育てリユースセンターの受付は午後5時までです。

連絡・問い合わせ先／山田ふれあいハウス 嘉麻市上山田502番地6 TEL 0948-52-1847

嘉麻市  
社会福祉協議会指定  
葬祭場紹介

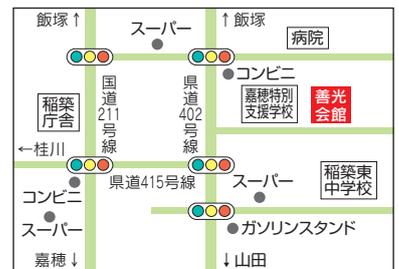
## 善光会館 稲築会場

嘉麻市鴨生277-17 ☎ (0948) 83-5000



皆さん、こんにちは。善光会館です。  
最近、ご自分のお葬式についてお尋ねに見える方が増えています。お葬式は思いもかけず突然やってくるものです。気が動転して何をしたら良いか分からなくなり、その時になって決めなければならないことや判断しなければならないことが一気に押し寄せてきます。だからこそ「自分の葬式のことなんて…」とお考えにならずに「お葬式はどれくらいかかるの?」「こんなお葬式にしたいのだけど…」「万が一のために何を準備しておけばいいの?」など皆さんの疑問や不安を善光会館にお持ちください。ご自分のお葬式についてちょっと考えてみませんか? 善光会館では事前相談をお勧めしています。

葬儀申し込み時に、「嘉麻市社会福祉協議会指定でお願いします」とお伝えください。葬儀にかかる費用の一部について割引を受けることができます。



嘉麻市社会福祉協議会指定葬祭場は、善光会館 稲築会場を含め、市内に8ヶ所あります。

おかむら葬祭岡村会館…………… ☎42-4420	いすや会館…………… ☎57-4444
飛鳥会館 南斎場…………… ☎42-4241	セレモニーホールおおつか…………… ☎52-1212
きど葬祭やまさ碓井斎場…………… ☎62-4499	かは葬祭 あじさい会館…………… ☎62-5566
ひさつね会館…………… ☎52-0758	

みなさまの善意、心より厚く、  
お礼申し上げます。

香典返し・寄附

1月1日～1月31日受付分



●香典返し

〔口春〕

親族 古江 英敏様  
故 古江 八重子様

〔樋渡〕

親族 竹中 キヨ子様  
故 竹中 杉夫様

〔枝坂〕

親族 草場 辰巳様  
故 草場 照子様

〔熊ヶ畑第二〕

親族 大里 忠幸様  
故 大里 タミ子様

〔百々谷〕

親族 根岸 善行様  
故 根岸 暎光様

〔尾浦第一〕

親族 寺田 信彦様  
故 寺田 后様

〔大橋〕

親族 川上 時子様  
故 川上 幸雄様

親族 松岡 幸生様

故 松岡 公共様

親族 宮野 ミサヲ様

故 宮野 新治様

〔蛭子〕

親族 菅 和弘様  
故 菅 キミ子様

〔下牛隈〕

親族 西山 秀秋様  
故 大里 隆隆様

親族 林 雅子様

故 林 晨夫様

〔東馬見〕

親族 鎌田 隆男様  
故 鎌田 晴香様

●寄附

〔一般寄付〕

嘉穂の名水愛好者一同様  
(株)O・K保険事務所様

〔子育てリユース〕

飯田 伊藤真理子様  
熊本 中島 瞳様

〔アルミ缶〕

百々谷 佐藤 麻美様  
宮若市 大友あゆな様

漆生南部 岩田 勇治様

漆生南部 西田 幸子様

漆生南部 市原登志彦様

漆生南部 西岡 聖様

口春 篠崎 哲郎様

鴨生第一 花村 誠市様

六四田 松田 敏雄様

銭代坊 匿 名様

百々谷 橋本 利根様

中央 明石 睦則様

石ヶ崎 渡邊美千代様

石ヶ崎 シニアクラブ様

〔リングプル〕

漆生中央 田中茶舗様

山野第二 古賀 絹江様

山野第二 中原 日枝様

鴨生町 芳野 良子様

鴨生北町 山崎 恵子様

百々谷 橋本 利根様

下宮 三好 邦央様

古河 甲斐 良子様

屏 粕井 節子様

上山田小学校奉仕委員会様

長円寺仏教婦人会様

石ヶ崎 シニアクラブ様

粕井電機商会様

〔古切手〕

辻中籠 永水 清子様

教育ナビゲーション(株)様

J A ふくおか嘉穂

南部グリーンセンター様

市内 匿 名様

〔アルミ〕

古河 塚原 京子様

あなたの会費が、社協の  
地域活動を支えています

会員として、次の方々に  
ご加入いただきました。

1月1日～1月31日受付分  
(敬称を省略させていただきます。)

鴨生第二 高倉邦子、下木屋

篤、下木屋初代

漆生老松 菊地由美

熊ヶ畑第二 大里和久、大里美

郁

ゆうひが丘 小野マリ

中益 吉田敦子

三日町 大村勝彦

上牛隈 中島由美

西馬見 縄田和之、縄田由紀子

桑野 渡辺てつ子

飯塚市 牧口輝代

成年後見  
制度

Q & A



Q



補助の開始をする  
には本人の同意が  
必要ですか？

A

補助制度とは、判断能力の減退が軽い人を対象にした制度です。そのため、自己決定権の尊重が必要です。補助の開始をするには、申し立ての時だけでなく、審判の時も本人の同意が必要です。



## ふるさとへの手紙 No.121



福岡県糸島市  
在住  
 Higuchi Kenji  
 梶原善二さん  
 神幸出身

### 故郷雑感

故郷山田を離れてから早や五十年。時々、帰省はしたけれど、何時とは無しに忘れていたような気がします。

ふと、遙か昔のことのように思い起こしてみようと…

私たちが小学校に行き始める頃は、まだまだ炭鉱も盛んで活気があり、石炭を積んだ「トロッコ」の線路が町なかを走り、洗炭場から流れ出る水が注ぐ川は「ぜんざい川」と言われて小豆色に染まっています。

学校が休みの日には、近所の友達と魚取りや水遊びをしました。当時は海水パンツなどの洒落た水着は珍しく、いつも肌着のパンツで泳いでいました。濁った川に浸っていたため黒く汚れたパンツで家に帰ると、たびたび親に叱られていました。今は清流になり

メダカや鯉が泳いでおり、しみじみと隔世の思いがします。

故郷を思うときに思い出すのがもう一つあります。それは、親しい友との別れです。

あれほどにたくさんの人々が行きかっていた町も、昭和三十年代の半ばを過ぎると、「エネルギー革命」と言われる時代を迎え、次から次に炭鉱が閉山し、多くの友達が家族と共に全国各地に引っ越していきました。毎月毎月、国鉄上山田線の上山田駅で汽車に乗り込む友達との涙の別れがありました。中学校の卒業の頃は、所謂「集団就職列車」で遙か県外に旅立つ友人と再会の約束をしながら見送りました。

以来、五十年以上会っていない友も多くいます。古希を迎える今、何故かあの当時の故郷の風景や友達の顔が思い起こされます。家族共々に引っ越しているため、消息がつかめない人も多く、また私自身も山田高校を卒業後、進学のため上京し卒業後は福岡に就職したため、小学校、中学校のクラス会ができません。 「ふるさと」…何とどう暖かな響きでしょうか！

### 編集後記



(きはら)

最近の彫刻刀には安全カバーがついています。「怪我しないから安心して使える」と話す子どもたちを見て、記念講演で西野博之さんが話された「安心して失敗できる環境がなくなっている」ことを感じました。



(みぞくち)

フィールドワークを行ったことで、水俣病は終わっていないということが自分の心の中に入ってきたように思います。二日間、現場に身を置いてたくさんのお話を聞かせていただき、忘れてはいけないことを学ぶことができました。



(たけがわ)

10周年記念式典の会場に、10年間分の広報紙の表紙を展示しました。創刊号から見ていくと、本当にたくさんの方と出会ってきたことを実感しました。これからも広報紙でたくさんの方と繋がっていききたいなと思います。



(おがわ)

介護保険制度が変わることへの不安はありますが、住み慣れた地域で暮らし続けるための支えあいの仕組みを、みなさんと一緒につくっていきたいと思います。



(あかま)

6ページにボランティア募集情報を掲載しています。春休み期間中などを利用して活動されてみてはいかがでしょうか。興味のある方はお気軽にお問い合わせください。



(ごうはら)

ふるさとへの手紙に書ききれませんでした。山田の子どもたちはきれいな川で泳ぐために嘉麻まで行っていたそうです。私も学生の頃は、どこまでも自転車で遊びに行っていたことを思い出して懐かしくなりました。



(かじ)

今月の一冊のコーナーを今回初めて担当しましたが、文章にまとめることが想像以上に難しく、文才の無さに心が折れそうになりました。先輩方のアドバイスやサポートにより書き上げることができました(\*^\_^\*)

## サロンや地域の集まりに伺います ～出前講座のご案内～

嘉麻市社会福祉協議会では、地域に出向いて、いろいろなお話をする出前講座を実施しています。

### 講座の内容

- 社協って何しよう？  
嘉麻市社協がどんなことをしているかを詳しく説明します。
- いつまでも住み慣れた地域で暮らしたい  
誰もが排除されず、その人らしく生き生きとした生活を営むことができる地域づくりをみなさんと一緒に考えます。
- かまこさんのお悩み解決  
電子紙芝居で成年後見制度について説明します。
- ふれあい・いきいきサロンって楽しいよ  
サロンや地域福祉部について話します。
- 災害に強いまちづくり  
災害時に助け合えるようなマップづくりや災害ボランティアセンターについてお話しします。
- 映画上映会  
昔懐かしい映画のDVDと機器の貸し出しをしています。

### 講座開催日程等

- ・平日以外でも受付しています。
- ・時間は、30分・60分コースがあります。
- ・料金は無料です。

### ・利用申し込みから出前講座実施までの流れ

- ①利用申込み→②日程調整・打ち合わせ→③講座実施

### 申込先

社会福祉法人 嘉麻市社会福祉協議会 ☎0948-42-0751